

# 日本郵政グループにおけるデータガバナンス に係る検討状況について

2023年10月4日

日本郵政株式会社 DX戦略部データガバナンス室

**1. グループにおけるデータガバナンス態勢構築にあたっての基本的な考え方**

2. グループ内におけるデータ連携に係るルール整備の検討状況

1. グループにおけるデータガバナンス態勢構築にあたっての基本的な考え方

2. **グループ内におけるデータ連携に係るルール整備の検討状況**

# グループ・データガバナンス基本方針書の概要

- グループ・データガバナンスの目的と、目的達成に必要な5つの主要要素をルール化してまとめた「**グループ・データガバナンス基本方針書**」（以下「基本方針書」という。）を作成中
- 10月を目途に基本方針書をまとめ、当該方針書を踏まえ、グループ各社の既存規程類への反映や、新規規程類の制定を行うとともに、グループとしてのデータガバナンス体制の構築を図る

## データガバナンス基本方針書の構成要素等

データガバナンスの目的

グループ各社が保有するデータをグループ全体で有効活用する

### 目的達成に必要な主要要素

1

#### データ利活用体制の整備

- ✓ データ利活用アクターの定義
- ✓ アクターの役割・責任の定義

2

#### データ利活用プロセスの策定

- ✓ 利活用時の業務フロー作成
- ✓ 利用申請フロー・判断フローの作成
- ✓ 判断後のモニタリング方法の策定

3

#### データ利活用判断基準の策定

- ✓ データ利用時の判断基準となる判定内容・項目の策定
- ✓ リスク管理基準の策定

4

#### 前提条件となる法規類の整理

- ✓ 個人情報保護法
- ✓ 銀行法・保険業法・郵便法等の業法
- ✓ 契約上の守秘義務
- ✓ グループ共同利用宣言
- ✓ グループ各社のプライバシーポリシー・社内規定

5

#### データマネジメント機能の整備

- ✓ アクセス権限の設定
- ✓ アクセス権限に応じたシステム上の設定
- ✓ メタデータ管理（データカタログ）の整備
- ✓ データ品質管理フローの作成
- ✓ データ品質管理機能の整備

# 基本方針書における目的と目標の設定

- 基本方針書の作成にあたっては、グループ・データガバナンスの目的達成に必要な**5つの主要要素ごとに**「グループにおけるデータガバナンス態勢構築にあたっての基本的な考え方」を踏まえた**目標を設定**するとともに、その詳細内容を条文化

グループ・データガバナンスの目的      グループ各社が保有するデータをグループ全体で有効活用する

## 目的達成に必要な主要要素

1 データ利活用体制の整備

2 データ利活用プロセスの策定

3 データ利活用判断基準の策定

4 前提条件となる法規類の整理

5 データマネジメント機能の整備

### 目標

当社グループが保有するデータを適切に利活用していくにあたり、データ利活用に関係する社内外の関係者、並びにその役割及び責任を明確に定める。

### 目標

データ利活用に係る計画、利活用の可否及びリスク判断（判断に至った経緯の記録を含む）、報告・モニタリング、並びにその他必要なデータ利活用のプロセスに係る手続を定める。

### 目標

個別のデータ利活用の事例において、適用される法令等及び契約等が遵守されるよう、利活用可否の判断基準を明確かつ適切に定める。

### 目標

当社グループが保有するデータを適切に利活用していくにあたり、適用される法令、規程類及び契約等を遵守できるように、判断基準及び手続の前提となる法規類を整理し、定期的に見直しを行う。

### 目標

データの所在や利用前提条件をデータ利用者に明示することを目的に、メタデータ管理機能を整備するとともに、プライバシーに関する問題への適切な対処及びデータ利活用の適切な監視のため、データのライフサイクル管理に関わる機能を整備する。

# データ利活用プロセスのイメージ

## 2 データ利活用プロセス

データ利活用の案件(ユースケース)ごとに、計画策定・利活用判断・利活用実行の3ステップでプロセスを管理し、統制されたデータ利活用を実現

